

かんたきより自宅復帰を目標に対応した症例

利用者情報 80歳代 女性 病名：腰椎圧迫骨折・抗好中球細胞質抗体血管炎

FIM：運動項目（91点満点）

	食事	整容	清拭	更衣上	更衣下	トイレ動作	排尿	排便	移乗ベッド	移乗トイレ	移乗浴槽	歩行	階段	合計
初期	7	5	1	3	1	1	1	1	2	2	1	1	1	27
中期	7	7	4	6	3	2	3	3	3	3	2	4	1	48
現在	7	7	4	6	4	7	6	4	6	6	3	6	1	67

FIM: 認知項目 30点（35点満点）

初期～中期

初期：圧迫骨折の影響で主に床上での生活。

中期：痛みに合わせて徐々に離床を行い、リハビリはトイレ移乗などの生活に即した内容で実施致しました。

徐々に腰痛が軽減し、車いすでの離床も可能になりました。



家屋調査実施

生活動線が長く玄関に段差があり。

リハビリでは引き続き、生活に即した内容の訓練と腰痛に合わせて歩行訓練を実施。



現在

屋内での歩行は短距離であれば見守りで可能

階段を使って段差昇降の訓練を実施中！



【まとめ】

自宅復帰の意欲が非常に高い方です。早期の在宅復帰を目指すため、初期には車いす自走訓練などを実施し、かんたき内での活動性向上を目指しました。中期以降も、更衣やトイレ動作などできることを一つずつ増やし、生活の自立、意欲の向上を促しました。現在は、自宅への外出を視野に介入を継続しています。

